

# YOSHIDA HIROSHI

Commemorating the 70th Anniversary of His Death

没後七〇年

# 吉田博展

2021/10.23 SAT ~ 11.28 SUN

■開館時間：午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

■休館日：月曜日

■観覧料：一般600円／大学・高校生300円／中学生以下無料

\*身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳をご持参の方、及びその介護者1名は無料

\*「川越きもの日」にちなみ毎月8日、18日、28日に着物で来館された方は2割引

\*「埼玉県民の日」11月14日（日）は無料で観覧できます

■主催：川越市立美術館、毎日新聞社 ■協賛：ニューカラー写真印刷株式会社

劔山の朝（部分）大正15（1926）年



川越市立美術館  
KAWAGOE CITY ART MUSEUM



# YOSHIDA HIROSHI

没後70年

# 吉田 博展

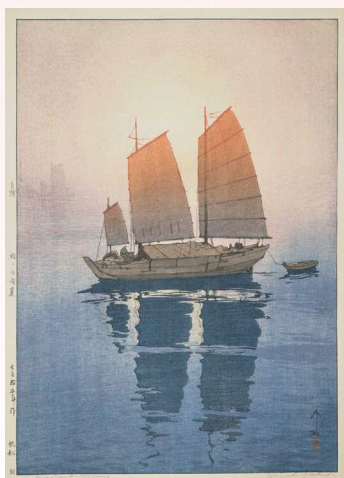
明治、大正、昭和にかけて風景画の第一人者として才能を発揮していた吉田博(1876-1950)。彼はもう一つ、版画家としての顔を持っています。吉田が自身の監修で木版画制作を始めたのは1925年、49歳のことでした。

吉田は版画を制作する上で、浮世絵に連なる伝統的な木版システムを採用します。彫り・摺りを常勤の職人に担当させ、分業による高度な技術を積極的に活用したのです。一方で吉田はただ原画を手掛けるだけでなく、自身も彫り・摺りの技術の研究に努め、時に自ら手掛け、全工程を熟知した上で厳しく監督しました。そうして制作された版画は、洋画家として培った写実性と、国内外を巡り、自然の中に飛び込むことで体得した吉田独自の視線を余すところなく表現しています。平均摺数は三十数度。水の流れや光のうつろいを驚くほど繊細に描写した版画は国内外で人気を博し、かのダイアナ妃にも愛されました。

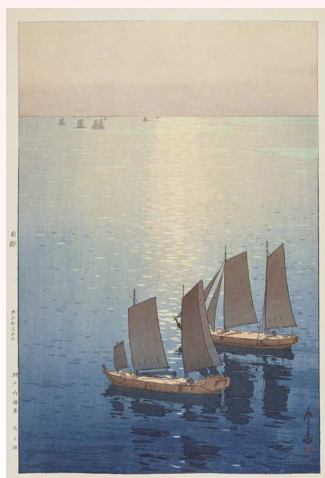
本展では吉田の没後70年にあたる節目に、後半生の大仕事として制作された木版画約150点を一挙公開します。また、版木や制作の基礎となる写生帖を併せて紹介し、その繊細な表現が生まれる過程をじっくりとご覧いただきます。



『Majesty』1987年より、ダイアナ妃執務室に飾られる《光る海》



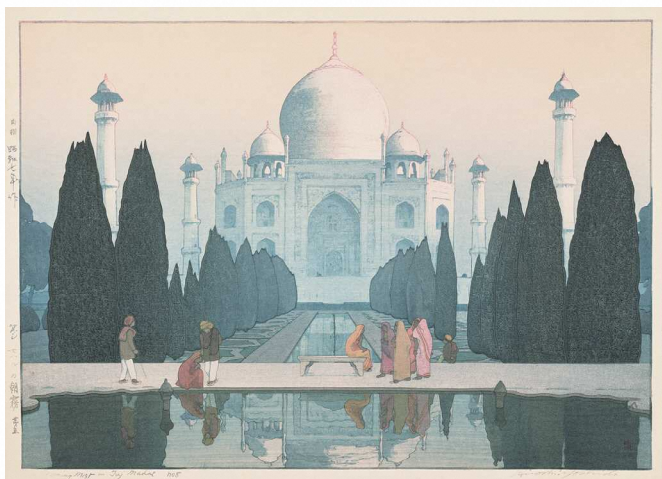
帆船 朝 大正15(1926)年



光る海 大正15(1926)年



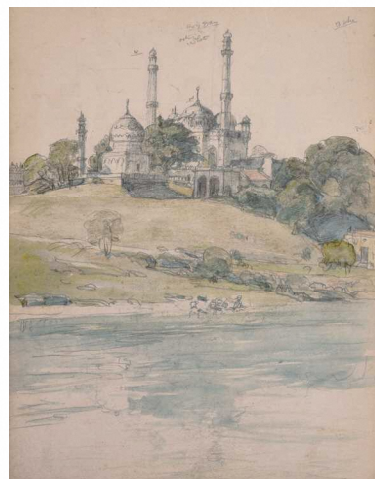
溪流 昭和3(1928)年



タジマハルの朝霧 第五 昭和7(1932)年



川越之櫻 昭和10(1935)年

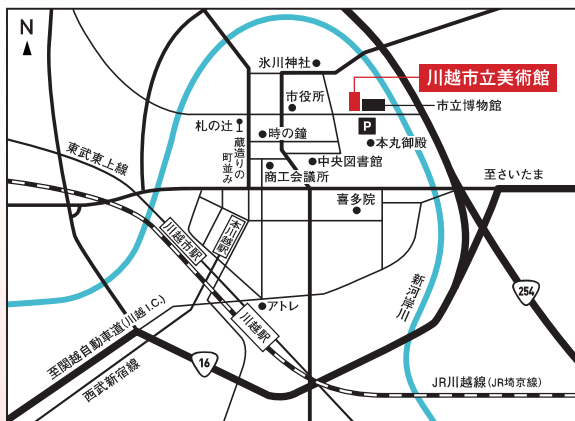


写生帖 昭和5~6(1930~1931)年

★ご来館の際は、最新の開館状況および注意事項を当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

### ■ 交通案内 《公共交通機関でのご来館にご協力ください。》

- 東武東上線・JR埼京線(川越線)「川越駅」から
    - 西口2番のりば「小江戸巡回バス」で「博物館美術館前」下車(所要時間20分)
    - 東口3番のりば「小江戸名所めぐりバス」で「博物館前」下車(所要時間20分)
    - 東口7番のりば 東武バス「川越運動公園／埼玉医大／上尾駅西口」ゆき「市役所前」下車徒歩5分
    - 東口1・2・4・5・6番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
  - 西武新宿線「本川越駅」から
    - 「小江戸巡回バス」で「博物館美術館前」下車(所要時間15分)
    - 5番のりば 東武バス「川越運動公園／埼玉医大／上尾駅西口」ゆき「市役所前」下車徒歩5分
    - 5番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
- ※「川越市自転車シェアリング」も便利です(ステーション15「博物館・美術館」)



川越市立美術館  
KAWAGOE CITY ART MUSEUM

〒350-0053 埼玉県川越市郭町2丁目30-1  
TEL:049-228-8080 FAX:049-228-7870  
https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/

